生殖テクノロジーとヘルスケアを考える研究会

Study Group on Reproductive Technology and Healthcare

日　時：2012 年 12 月 15 日(土)　13:30-16:30

場　所：東京大学　本郷キャンパス

医学部研究教育棟 13 階　第 5 セミナー室

(参加費無料・申し込み不要ですができるだけ事前にお知らせください)

卵子提供と超高齢出産の将来を考える; 女性医療の現場から

近年、海外で不妊治療を利用する人々が増加しているといわれる。晩婚化=晩産化傾向により、この動きには拍車がかかると推測される。卵子提供は「卵子の老化」に対して有効な手段とされ、50 歳以上の超高齢妊娠出産も可能になる(H23 年度の 50 歳以上の出産は 41 件にのぼる)。国内での法規制や実施体制の整備が進まないなか、個々の利用者において自己責任で渡航不妊治療が求められているのが現状である。我が国では利用前後のサポートのみならず、その後の母子や家族をサポートする体制も整っていない。渡航不妊治療や超高齢出産のリスクはどのようであるか、国内外での連携構築、周産期医療に与える影響など、国境を超えた生殖技術の利用がもたらす課題について、女性医療の現場から考える。

おくだみか
奥田美加（横浜市立大学附属市民総合医療センター総合周産期母子医療センター准教授）

「周産期医療からみた生殖補助医療の功罪－分娩時年齢の高年齢化」

プロフィール：

産科医師・医学博士。横浜市立大母子医療センターの産科主任を務める。2006 年 4 月、衆議院厚生労働委員会で産婦人科医師の勤務状況の実態について参考人発言、産科医不足による周産期医療の危機を訴えた。業績として「生殖医療と周産期医療との和協：周産期医療施設における現状と問題点」（第 28 回日本受精着床学会学術講演会シンポジウム、2010）他。

あいさかこうぞう
合阪幸三（医療法人財団小畑会浜田病院副院長）

「生殖医療技術の進歩とそれに関する国内外の社会情勢について」

プロフィール：

医学博士。東京大学医学部非常勤講師などを兼任。専門は生殖内分泌学、不妊症の診断と治療、周産期医学、更年期障害の治療、腹腔鏡手術、子宮内膜症の治療、産婦人科領域の手術療法など。業績として「今日の話題 超高齢婦人における周産期管理の取扱いとその問題」(『産婦人科の実際』55(5) 2006)　他。

[連絡先]
金沢大学医薬保健研究域医学系　環境生態医学・公衆衛生学　日比野由利
島薗洋介・土屋敦(東京大学)
連絡先　本麻紀（e-mail. moto0419@staff.kanazawa-u.ac.jp）
内閣府　最先端次世代研究開発支援プログラム「グローバル化による生殖技術の市場化と生殖ツーリズム:　倫理的・法的・社会的問題」http://saisentan.w3.kanazawa-u.ac.jp/